

決 裁	議 長	局 長	主 事

受付

報 告 書

平成 年 月 日

湯前議会議長 倉本 豊 様

湯前町議会議員

議員派遣として参加（出席）した研修（会議）の内容（結果）は、次のとおりでありました。

期 間	平成30年 2月 5日（月）
場 所	あさぎり町免田「ポッポ一館」
目 的	上球磨議員研修会

報 告 の 内 容	<p>◆研修内容：</p> <p>演題：質問力で高める議員力・議会力 講師：龍谷大学政策学部教授 土山 希美枝 氏</p> <p>1. 議員の職責「議員力・議会力」</p> <p>○全ての政策は実現できない。 国は2000年以降、歳出削減を進め、地方財政もその影響を受けている。 課題は無限にあるが、資源は有限なので決断が必要。 政策に正解はないため、6割の納得を取りつけないといけない。 議会で良い決断を早くしないと、地方は衰退する。 複数の選択肢から何を選ぶかは、最終的に議会の権限。 住民や町にとって、よりよい政策の実現を目指すのが議会の職責。</p> <p>○現状は、議会が政策を制御する機能が弱い。 議案の9割以上が首長提案。その内の殆どが原案可決。 議員は、政策にどう貢献するかが重要。</p> <p>○執行部と議会は、町を良くしたいという共通目標がある。（同じ土俵） 昔ながらの執行部と議会の関係性には、行政の悪い風潮もある。 行政のメンツを潰さないように気遣い、馴れ合いや追認になってはいけない。</p>
-----------------------	---

- 職員は2割ほど減っているが、事業は減っていない。
ブラッシュアップ（PDCA）ができにくくなっている。
このPDCAの提案・監査を誰が行うのか？ → 議員
- 人口減少は必然的。マクロ的な問題であり国の政策。
地方の人口奪い合いに、どれだけ資源を投資するのか。
人口減少の後、どう対応するかが重要。

2. 一般質問の論点「質問力」

- 議員が政治家として勝負できるのが、一般質問の場。
執行部からの公式見解を引き出し、政策提案もできる。
- 住民に「議会があって良かった」と思われるよう、良い一般質問をすべき。
- 一般質問は、「事実」「分析」「主張」で構成。
- 事前に論点を整理。「答弁で、これだけは引き出したい60%ライン」を設定。行政は組織的に答弁するので、あるライン以上の回答がなければ、そこで質問を切り上げ、次回に持ち越してもよい。
- 他の議員の質問に追加する関連質問、以前の質問内容の経緯などを問う追跡質問も有効。
- 一般質問の中から、議会として取り上げる質問を選び、委員会の所管事務調査などに回す。そうすれば、行政側も逃げられない。
- 複数の議員が連携し、同じテーマを異なる論点や視点で質問する。

3. 情報収集

- 情報収集で参考になるデータベースを以下に示す。
D-File(政策系情報の地方紙スクラップ)、日経テレコン(地方紙含むオンラインDB)、図書館リファレンス、リファレンス共同データベース、e-Stat(政府統計のポータルサイト)、WARP(都道府県広報)、eLen(名古屋大学の条件検索DB)、RESAS(まちひとしごと創生本部)、Cinii(雑誌・論文情報)、NDL-OPAC(図書館収蔵文献情報)

◆所感

- ◎個人的に、これまでも一般質問を追求してきた。
モヤモヤしていた一の矢、二の矢の組み立て方が、今回明確になった。
- ◎現状、一般質問で不足している技術が、他議員と連携した一般質問。今後は、個人としての一般質問から、議会としての一般質問の視点で執行部を質したい。
- ◎ご紹介いただいた情報源を、次回以降で活用したい。
- ◎これまで議場では、気遣い、馴れ合いの場面があった。熱意と誠意をもって質問・答弁に臨まないと、良い町づくり、良い政策実現はできないと改めて認識した。
- ◎今後、二元代表制を重視した「政策議会」を質問力からつくりたい。